

講義名	経済学入門（商学部）			授業形態	
担当教員	辻 美代	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

私たちは新聞やテレビで毎日多くの経済問題に触れています。現在、国境を超えてモノ・ヒト・カネ・情報が行き交い、経済活動は国内にとどまりません。経済活動はグローバルに展開しており、これら問題を理解するためには経済学の知識が必要です。
この講義では、経済の仕組みについて、基礎を学びます。毎回、日本または世界の経済ニュースに触れるようにし、興味関心を持ってもらいます。また、日本の経済発展を振り返り、直面する問題点を考えます。さらに、第二次世界大戦後の世界経済を拡大してきた、自由貿易やグローバル化について学び、コロナ後の世界経済について考えます。

到達目標

経済学を初めて学ぶ者が経済学の考え方や概念を学ぶことによって、経済社会問題を理解するために必要な基礎知識が取得できるようになる。
ヒト・モノ・カネ・情報に国境がない現在、世界情勢に目を向ける姿勢を身につけることで、様々な事柄に対し、自分で考えることができるようになる。

提出課題

- ・授業中に課題を出し、次回授業時に提出してもらいます（数回予定）。
- ・復習（確認）テストを行います（複数回予定）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・課題は次回授業時に解説します。
- ・復習（確認）テストは授業中に講評・解説を行います。

評価の基準

課題の提出、復習（確認）テストおよび小テスト、期末試験を総合して評価します。
但し、状況に応じて評価の基準は変化することがあります。

- ・課題提出・・・20点
- ・確認テストおよび小テスト・・・40点
- ・期末試験・・・40点

履修にあたっての注意・助言他

普段から新聞やニュースなどで日本や世界の経済活動に関心を持ってください。毎日ニュースをフォローしてください。新聞、テレビ、ラジオ、携帯などニュース媒体は問いません。真面目に受講すること、授業中の私語、遅刻・途中退室などの妨害行為、迷惑行為は厳禁です。

教科書

・使用しない。

参考図書

・1からの経済学	中谷武	顕学舎	2640	9784502680809
・日本経済を学ぶ	吉田規久男	筑摩書房	825	9784480056023

その他

授業中に新聞資料等を配布します。

授業計画

1. 「経済」とは
2. 取引、市場、政府
3. 需要と供給 需要
4. 需要と供給 供給
5. 需要と供給 均衡
6. 市場の失敗と政府の役割
7. 市場の失敗と政府の役割
8. これまでのまとめと小テスト
9. 国内総生産
10. 国内総生産
11. 戦後日本経済の発展
12. 戦後日本経済の発展
13. 冷戦終了後の世界経済
14. 冷戦終了後の世界経済
15. グローバル化とその問題点

* 世界情勢および進捗状況に応じて変更します。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：毎日、ニュースをフォローする・・・約1時間（1日10分）
復習：授業中に配布された資料（新聞記事など）を見直し、関連資料を探し、纏める・・・約1時間
課題：与えられた課題を図書館やインターネットで調べ定める・・・約2時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義を受講し学修を積み重ねることで、本学ディプロマ・ポリシーにある「知識を知恵に転換することができる」を達成することができるようになる。特に「現象や事実の中に隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる」課題発見力の養成となる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考